

北九州市立山田緑地・北九州市ほたる館 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月16日（水） 10：15～12：05
- 2 場 所 北九州市役所（小倉北区城内1番1号）地下2階第2入札室
- 3 出席者 （検討会構成員）薛構成員（座長）、長構成員、加藤構成員、横田構成員、
植田構成員
（事務局）都市戦略局緑政課長、公園経営係長、職員

4 会議内容

- 当日のスケジュール、審査にあたっての留意点、審査結果の公表等について事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出。

○応募団体（九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体）より提案概要に関してヒアリング

- （構成員） 構成団体の決算書を確認したが、設立5年で累計利益がない、役員報酬が出ていない等の不安がある。今後会社としての持続可能性はあるのか？また、3社のJVということであるが、構成団体のうちの1社が資金的に厳しくなった時に、他団体からの支援等は考えているか。
- （応募団体） 赤字となっていることについて、設立から5年間は投資の時期と位置付けていたためであり、令和6年8月からは黒字となっているため、問題ない。また、構成団体が資金的問題を抱えた際は、他団体から支援をするため、そちらも問題ない。
- （構成員） 山田緑地の募集要項を見ると、専門的な知識をもった上での接客応対を求められているが、対策しているか。
- （応募団体） 山田緑地には哺乳類と昆虫を専門とした職員が各1名ずつ、ほたる館には昆虫水生生物の専門家がおおり、他職員のスキルアップにも力を入れている。また、いのちのたび博物館の学術研究員とも連携している。
- （構成員） 山田緑地の株式会社小学館『BE-PAL』が進める公園づくりプロジェクトとの連携について、期間の縛りはあるのか？
- （応募団体） 期間の縛りはないが、ボランティアの育成が進んだこともあり、来年以降は、小学館へ相談しつつ、山田緑地で管理することとなっている。連携自体は継続する予定。
- （構成員） 前回の提案時に、来園者のニーズを聞き、それに応えるという話があったが、実際どんなニーズがあり、どう応えてきたのか。
- （応募団体） 子育て世代からの遊具を充実させてほしいという要望が圧倒的に多いため、市への予算要望や、宝くじへの助成要望を継続して行っている。また、子供や高齢者層以

外も使いやすい公園になってほしいという声もあり、イベント内容等を工夫している。

- (構成員) 20代職員の人件費が300万円程度となっているが、最低賃金が上がっていく中で、継続して人材の確保ができるのか。
- (応募団体) 職員の収入は重要な点であると考えている。今後、集客を増やし、駐車場収入等を増やすことで、スタッフへ賃金として還元していきたいと考えている。市が、今後の賃金上昇を見込んで指定管理料を設定していることも理解しているため、人件費上昇については適切に対応していく。
- (構成員) ほたる館について、出張展示での集客は伸びているが、来館者数は大きな伸びがない。今後の対策は。
- (応募団体) 出張展示でほたる館を知って来館してくれる方が少しずつ増えている、継続して行っていく予定。
- (構成員) ほたる館での夏季限定のドリンク販売について、自販機の導入は難しいのか。
- (応募団体) 飲料会社に相談したところ、冬季の人通りが少ないため、赤字になるだろうといわれ断念した。
- (構成員) SNSの上質化について、山田緑地のSNSは自然の香りを感じられるような素朴さが大事なのではと思うが、そのうえでの上質さとは。
- (応募団体) ページを開いたところには植物等の写真を置き、Instagramのハイライトに虫等を置くなど、一般の方が見やすいSNSにしたいと考えている。また、撮影機材のアップデートを行う予定。
- (構成員) 人材育成に力を入れるとあるが、具体的に研修時間等を増やすのか。
- (応募団体) 具体的に研修時間を増やす等の予定はないが、朝礼や月1回のミーティングで情報共有を丁寧に行うほか、SNSに関する研修の実施や、接客経験の豊富なスタッフからの現地研修等を行う予定。
- (構成員) ほたる館のホームページについて、今後のアップデート予定は。
- (応募団体) 今後は、ホームページではなくSNSに力を入れていく予定。
- (構成員) 2施設間の回遊強化について、これまでの事例や今後の予定は。
- (応募団体) ほたる館でほたるの生態等について事前説明を行った後、山田緑地で実際にほたるを見るといったツアーは好評。今後他の生物でも同様のツアーを行っていきたい。また、水環境館、ほたる館、山田緑地が連携したウォーキングイベントを行う予定。その他、今夏から山田緑地のゲート部分にほたる館への案内を掲載している。
- (構成員) “30世紀の森づくり”というテーマや3つのゾーン等は指定管理者が決めたことなのか。
- (応募団体) 市が決めたこと。
- (構成員) “里地里山の取り組み”についてはだれが決めたのか。
- (応募団体) 市と指定管理者が共同で決めた。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○ 構成員は、応募団体の評価レベルを発表し、構成員全員で意見交換。

- (構成員) 九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体は、現指定管理者なこともあって、施設を熟知しており実績や経験も十分である。山田緑地・ほたる館に対する前向きな想いも感じられた。
- (構成員) 理念について、“30世紀の森づくり”と“里地里山の取組”には言葉として関係ないイメージを受けた。「繋げていく」と強調しすぎるのは誤解を生むのでは。
- (構成員) 利用者の研究が良くされており、施設特性や利用者のニーズを把握した提案内容となっていると感じた。
- (構成員) SNSのリブランド化について、写真の過度な加工等、おしゃれすぎる雰囲気は施設に合わないのではないかと不安。施設の良さを生かしたSNSになることを期待したい。
- (構成員) SNSには流行があるが、ホームページは長く残っていく。この2施設は、学習施設としての側面もあるため、消費者ニーズに重きを置きすぎることは違和感。ホームページを利用した情報の蓄積等は、集客とは別の話として、しっかり行っていただきたい。

○各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

- 1 指定管理者としての適性のうち、
 - (1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針について
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 3
 - (2) 安定的な人的基盤や財政基盤について
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 3
 - (3) 実績や経験などについて
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 4
- 2 管理運営計画の適確性のうち、
 - (1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについて
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 4
 - (2) 利用者の満足度について
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 3
 - (3) 指定管理料及び収入について
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 3
 - (4) 収支計画の妥当性及び実現可能性について
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 3
 - (5) 管理運営体制などについて
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 3
 - (6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについて
九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 3
 - (7) 社会貢献・地域貢献について

が妥当であると決定した。

○ 事務局は地元団体に対する優遇措置を反映させたうえでの合計得点を発表。

九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体 78点

○ 構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体は、施設を熟知しており、実績や経験も十分ある。山田緑地・ほたる館に対する想いも強く、前向きさを感じた。提案した事業内容等も指定管理者として相応しいものと思われる。

審査の結果、検討会としては九州造園・グリーンワーク・しらすやまと共同事業体が指定管理者の候補として相応しいと考える。

なお、付帯意見として、以下を付すことにした。

- ・ 経験から得られる知識も大事だが、経験からは得られない知識もあるため、自然を預かっている管理者としての責任を持ち、様々な面で知識のブラッシュアップを継続すること

○ とりまとめを行って、検討会を終了した。